

日本語を学ぶ [前期]

講師：伊東 恵司（指揮者・詩人）

◇ アーカイブ配信 全15回

講義概要

合唱の特徴は「一人ではできないこと」に加え、「言葉があること」であると考え、言葉をどのように指導するかということは合唱指導の基幹をなす部分でもある。ただ、日本語については改めて研究する、理解するという対象にはなりにくい。また、日本語の合唱曲は親しみやすい反面、日本語と西洋音楽の折衷的な要素が発展しているとも言え、曖昧で複雑な様相を併せ持つ。そのため、どうしてもエモーショナルな指導（パーソナリティに依拠した指導）に偏りがちで、それが合唱指導における大きな罣にもなり得るように感じる。そこで、「そもそも言葉とは何か」という問いに立ち返るとともに、日本語のメカニズム、日本語の詩歌についての理解や整理を行い、曲との結びつきを読み解きつつ、的確でバリエーション豊かな指導について提案してみたい。内容については、日本語のバックグラウンドを確認しながら、譜面例や演奏例を利用し、座学を中心に行う。終盤は、サンプル動画やモデル合唱団への指導動画等を用いて実践に生かせるようにしたい。

カリキュラム

授業回	授業内容
第1回	言語とは何か、言葉はどのようにして歌になるのか
第2回	日本語の歴史、日本語の言語的特徴を理解する
第3回	日本語と西洋音楽との出会い
第4回	言葉は何を伝えているのか～言葉の具象性と抽象性～
第5回	日本語の詩を読む
第6回	作曲家はどのように詩を歌にするのか1
第7回	作曲家はどのように詩を歌にするのか2
第8回	作曲家はどのように合唱曲を作っているのか1～言葉を音楽に～
第9回	作曲家はどのように合唱曲を作っているのか2～詩を音楽様式の中に呼び込む～
第10回	作曲家はどのように合唱曲を作っているのか3～詩の再構築～
第11回	日本語の曲を練習する1～母音と子音をどのように考えるのか
第12回	日本語の曲を練習する2～言葉と音型や拍節をどのように考えるのか
第13回	日本語の曲を練習する3～詩の意味をどのように読み取り、表現するのか
第14回	実践練習として～総まとめ1（例：團伊玖磨「岬の墓」他（予定））
第15回	実践練習として～総まとめ2（例：清水修「月光とピエロ」他（予定））